

《第 72 号》

ママサポートえぷろん

# ぽけっと

発行 2017年 6月 30日

編集 特定非営利活動法人

ママサポートえぷろん事務局

発行責任者 帯谷 昭子



## 平成29年度定期総会終わる！

去る5月30日、当法人の定期総会が行われました。平成28年度の事業・収支決算報告、平成29年度の事業計画・活動予算等審議が滞りなく終了しましたのでご報告いたします。

また、例年実施している「事業所報告」では、各事業所より選出されたスタッフによる実践発表がありました。一部ご紹介させていただきます。

利用者さんのことを思うあまり、職員がぶつかることも多々あります。「利用者さんではなくスタッフに気を遣うってどういうことよ？」と思います。自分が良い介護が出来ているかと聞かればわかりません。見た目ではその人の介護職の経歴も肩書もわからない。

ただ利用者さんとどう向き合っているか、どう接しているのかが大事なのだと思います。私は介護員としてはまだまだ未熟です。応用が苦手なので機転がきかない。空気が読めないこともあります。目つきも悪いし口も悪い。それでもこの仕事を選んだ以上、少しでも利用者さんの笑顔が見られるよう、努力したいです。

- ・理事長 帯谷 昭子
- ・副理事長兼事務局長 山田 美香

- ・生活サポートてのひら 管理者 藤原 孝子
- ・相談支援事業所てとて 管理者 帯谷 昭子 (兼)
- ・デイホームひなたぼっこ 管理者 山川 春美

- ・グループホームうらら花 管理者 吉田 圭介
- 計画作成担当 五十嵐 真穂
- 介護主任 千葉 智美

- ・テラスハウスぽのぼの 管理者 山田 美香 (兼)
- ・MELLOW 倶楽部あ・笑～る 管理者 帯谷 昭子 (兼)

## 平成29年度 役員および職員体制

- 理事 根本 雅恵
- 島田 政典
- 島貫 聡哉

- 監事 新津 直美
- 細野 幸子



# ある日のひなたぼっこ



## エピソードその1

朝のひとコマ。

男性利用者さんが、少し離れた場所にいた女性スタッフに「24歳くらいかい？」と。

そう言われて喜ぶ47歳のスタッフ♥

笑顔で利用者さんの近くに行くと…。

「近くで見ると50歳！」 なんと無邪気に言われてしまいました。。

みんなで大笑いしていると、そこであるおばあちゃんがひとこと。

「朝から笑ったから、今日は福が来るよ〜」だって。



## エピソードその2

入院中の病院にて。

おばあちゃん：「早くひなたぼっこに行きたいな〜」

患者さん：「ひなたぼっこってそんなにいいところなのかい？」

おばあちゃん：「そんなにいいところではないよ〜」

「でもね、私にしたら一番いいところなの」

なんと嬉しいお言葉です！

どこよりも来たい場所（とこ）

いつも居たい場所（とこ）

いちばん居心地の良い場所（とこ） ※ひなたぼっこの理念です

利用者さんに届くケアができるよう、これからも頑張ります。



## エピソードその3

どういったわけか・・・

利用者さんたちのあいだで、ひなたぼっこがあと1年でなくなるという噂が！！

スタッフ：「ひなたぼっこ、なくならないよ〜。大丈夫！」

Yさん：「それなら嬉しいわ〜」

Oさん：「安心したな〜」

Aさん：「なくさないでよ」

最近利用者さんが少なく、みなさんに心配されているひなたぼっこ・・・

どうか噂で終わりますように（切実）



## ある日のうらら花

### 僕とS子さん

日々、利用者の方々とはいろいろな会話をしていますが、とある利用者さんと顔を合わせるたびのお決まりの会話があります。

S子さん 「そういえばあんた歳なんぼになったのさ？ 23？ 24？ 25？」

私 「なんぼくらいに見える？ ……35になったのさ～！」

S子さん 「35～っ？！ あれ～！！ そんななったの～？？」

それは早く(嫁)もらわねばなんないべさ～！ だれかいねえかの～？

でももらねばならないけどだれもないもんね～。 みんな嫁さんいつてるからだめだもね～！！ 街に盛り場ないかね？ 盛り場さ行ってもダメかね？」

私 「行っても大して人いないから駄目だろうさね～？  
S子さん、うちさ嫁来たたらどうなんだべね？」

S子さん 「いや～あつはははは～！ したってあと10  
くらい若けりゃ行くにいいんだけどもな～！  
ちょっと歳いってしまったもんね～！ いや～！」

私 「ところで、S子さん、歳いくつになったのさ？」

S子さん 「60……70くらいだったべかね～」



と、この後もしばらく会話は続くわけですが……。

この会話をすると、まわりの皆さんもニヤニヤとしながら、「(嫁)いっぱい隠してるんだ！」

「たくさんいるのに誰に決めないでいるんだべさね～？」など、膨らんでいくときも多々あります。

しかしながら、いつも僕の嫁取りの心配をしてくれるS子さん。。

なるべく早くどっかから嫁を見つけ、皆さんに子供の顔を見せてあげたいと思っているのですが果たしてその時はいつになったら訪れるのでしょうか？

## ある日のあ・笑～る

昨年103歳で亡くなったSさん。あ・笑～るには3年近く通ってくれていました。亡くなって1年経った今でも、ことあるごとに皆でSさんを思い出します。

体操をしては、「この体操のとき、Sさん手と足一緒になってたよね～」

ご飯を食べては、「100歳過ぎてもしっかり栄養摂って食べてたよね～」

脳トレしては、「頑張って挑戦してたよね～」

リハビリの話になれば、「先生のこと、ありゃ～絶対好きだったよね♡」

そして最後は、「Sさんのような年の取り方が出来ればいいね～」と。





# いろは坂

「なんだかなあ」

広井 教子

久しぶりに列車で札幌へ行った。今までは、スーパーおぞらの切符と宿泊するホテルを、前もって駅に電話で予約していたが、最近それができなくなった。そのため、一度池田駅に向いて切符を購入した。

ネットでの販売が主になったからと説明を受けたが、アナログ人間の私には、なんとも不便に感じる。

あれっ？と思うことは、他にもあった。

一切の車内販売がなくなっていた。三時間ほどを、ぼんやりと窓の外を眺めているか本を読んで過ごすのは、笑顔を振りまきながらワゴンを押す売り子さんに会うのが楽しみだった。熱いコーヒーや冷たいお茶、お弁当やサンドイッチなどを買うことができた。ヨーグルトや季節のアイスクリームもあり、旅の気分がもりあがった。

それが全くない。あの売り子さんたちは、どうしたのだろう。失業したのだろうか。

それにしても、と考える。もし、乗車前に用意しそこなったら、何時間も水分なしで過ごさなければならぬことになる。自動販売機もないのは、あまりに不親切ではないか。

駅が近づいた際に、「停車時間はわずかです。お早めにご用意を」とアナウンスされる。言葉はいいのだが、「もたもたするな」とせかさされているようで、なんとも落ち着かない。

「ああ、なんだかなあ」そんな気持ちのまま池田駅に戻った。乗るときには気づかなかったが、降り口とホームの段差がほんのわずかになっている。以前は、跨ぐのが大変だった。

「楽になったでしょう。線路を低くしたんですよ」

駅員さんが笑顔で迎えてくれた。少しほっとした。

## 認知症対応型サービス事業開設者研修の事例に取り上げられました。

5月31日に開催された上記研修の中の「グループホームの災害事例に学ぶ教訓と対応」において、昨年の台風に伴う豪雨災害の奏功事例としてうらら花が取り上げられました。

今回担当された札幌市防災協会からの報告では、講義の中で具体的な事例をスライドを用いて説明したことで、とりわけ真剣な表情で聴き入る受講者の反応が見られたとのことでした。

まもなくあの豪雨災害から1年が経とうとしています。常に高い意識を持ち、入所者・利用者の皆様の安全安心確保に配慮していきたいと思えます。

平成29年度第1回  
認知症対応型サービス事業  
開設者研修

**グループホームの災害  
事例に学ぶ教訓と対応**

平成29年5月31日  
公益財団法人 札幌市防災協会

**事例6 北海道足寄町グループホーム豪雨災害**

- ◆ 施設名  
グループホーム うらら花  
(NPO法人「ママサポートえびろん」が運営)
- ◆ 人的被害発生のおそれがあった日時  
平成28年8月17日 午後11時半頃
- ◆ 人的被害発生のおそれがあった原因  
大型の台風7号が北海道樺太付近に上陸し、それに伴う大雨により氾濫した川の水が施設に押し寄せたことによる。
- ◆ 建物構造  
木造一部2階建て、延べ面積 約225㎡

● 水害の際は、地盤の低いグループホームの入所者を地盤の高いデイサービスセンターへ避難させることを事前に決めてあり、的確な判断のもとでそれを速やかに実践した。

この災害で、人的被害を防止できた要因は

- 施設管理者の極めて的確な判断
- 事前の計画に基づく避難の速やかな実践

によるもの

**是非参考に！**